

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名	福祉介護課
-----	-------

会 議 名 令和8年度諏訪市地域福祉計画推進協議会

開催日時 令和 8年 5月18日(月) 13時 30分 から 15時45分まで

出席者

○委員 (敬称略)
宮下和昭 小口貴子 牛山はるみ 高林康樹 小島光治 長井昭二 名取まゆみ
松井陽介 中澤洋一 井原大治 田丸美咲 山田紀子 宮坂吉郎

○アドバイザー
特定非営利活動法人 SCOP 鷲見真一

○事務局
小泉知道 飯田洋一 西澤菜都美 北原貫汰 成田大悟 細野洋子 笠原大志
藤森一彦 守屋和則
桜井幸雄 大羽伸弥 柴田裕美

資 料 次第、諏訪市地域福祉計画推進協議会設置要綱・諏訪市地域福祉活動計画推進協議会設置要綱、協議会委員名簿、第5期諏訪市地域福祉計画・諏訪市地域福祉活動計画(冊子・概要版)、施策評価、意見シート

1 開会

2 会長あいさつ

3 健康福祉部長あいさつ

4 第5期諏訪市地域福祉計画・諏訪市地域福祉活動計画の概要・成果について

(1) 第5期諏訪市地域福祉計画・諏訪市地域福祉活動計画

令和7年度の取組について

- ・地域福祉計画について取組状況の報告(事務局 福祉政策係 飯田係長)
- ・取組に対する質疑

<基本目標1【地域づくり】>

○「地区を中心とした福祉コミュニティづくり」・「支え合い活動の促進」について「A:順調に進んでいる(そのまま継続)」と評価しているが、現状地区社会福祉協議会が休止あるいは無い地域もあることも踏まえて評価をしているのか。(委員)

→休止・活動ができていない地区があることは課題だと承知した上で、活動ができた内容について「A:順調に進んでいる(そのまま継続)」と評価した。(社協 櫻井局長)

○ふれあいサロンの定義を教えてください。(委員)

→「おおよそ月に一回以上定期的に集まること」としている。地域によっては農閑期のみ集まるというサロンもあるが、定期的に集まって顔つなぎをしていただく事も定義としている。(社協 柴田係長)

→老人クラブはふれあいサロンとして位置づけられるのか。(委員)

→老人クラブはふれあいサロンとして登録されていない。(社協 柴田係長)

→定義としてはふれあいサロンと老人クラブが似ていると考えるが、分離している理由はあるか。(委員)

→分離していることはない。各老人クラブからふれあいサロンとして登録するご意向があれば相談に乗らせていただく。現時点ではそのような登録には至っていない。(社協 柴田係長)

→今後もふれあいサロンの数を増やしていく事が一つの目標になってくと思うが、どのように考えるか。また増やすためにどのような取組をする必要があると考えるか。(委員)

→ふれあいサロンからの相談としては「担い手不足で後任がいらない」というケースが多い。一方で毎年新規で立ちあがるサロンも相談をいただいている。そういったふれあいサロンがどういった方法で住民に周知し、運営をしていくのか等の支援を社協で行っている。(社協 柴田係長)

○ぴっぴ講座について数値管理シートでは「C:実施方法を含めて改善が必要である」であるのに対し、施策評価シートでは「B:概ね順調だが、不十分な点が少しある」としているが、この乖離についてどう考えているか。数値管理シートから見た今後の具体的な取組方針を教えてください。(委員)

→数値管理シートでは基準値(令和4年度データ)から令和6年度で一度減少し、令和7年度では若干増加したことから、計画全体でみると評価は「C:実施方法を含めて改善が必要である」となるが、令和7年度ベースで見た前年比較により「B:概ね順調だが、不十分な点が少しある」とした。現在ぴっぴ講座の内容として「成年後見制度」「すわっこいきいき体操」に関する内容が多く上がってきている。また地区社協からは地区の福祉講座の一環として「地域福祉」について教えてほしいという相談もある。

また地域の出前講座として諏訪赤十字病院や諏訪市役所の寄り合い塾・ライフドア等数多く実施している。出前講座の相談をいただいたときは、「どのような講座を希望されているか」を伺い様々な講座を勧めているため、相談があったケースがすべてぴっぴ講座に繋がっていないということもある。(社協 柴田係長)

○ぴっぴ講座について、出前講座は県社協、市社協、市町村、大学等様々な機関が実施しているため、小学校、中学校、高校等教育機関がどこを利用していかかわからないという声が届く。今後は各機関がお互いに協力できるような体制ができればよいと考える。(委員)

→福祉分野は多岐にわたっているため、整理を進めていきたい。(社協 柴田係長)

○「地区を中心とした福祉コミュニティづくり」や「区自治会等の支えあいの促進」というところで「順調に進んでいる」という評価をしているが、「地区社協」・「ふれあいサロン」・「ぴっぴ講座」等の回答を聞く限り、現状と評価に乖離があるように感じるがいかがか。(委員)

→地区社協が立ちあげられて30年経過した中で、各機関の「あり方」をどうしていくかというのも考え直す時期が来ている。「A:順調に進んでいる(そのまま継続)」という評価を出してはいるが、現状のままで良いという風にはとらえておらず、今後については皆さんと一緒に協議をしていきたいと考えている。(社協 大羽係長)

→地域に住んでいる方々だけでなく地域にある施設、団体も巻き込んで積極的に連携すれば新たなエネルギーを生むと考える。(委員)

<基本目標3【基盤づくり】>

○チョイソコかりんちゃんの利用が進んでいるが、利用されている方が年齢と共に新しいことに慣れない、あるいはネット予約が難しいとの声が届く。現在のチョイソコかりんちゃんの利用状況は。

→担当課に確認し後日回答する。(事務局 福祉政策係 飯田係長)

○災害時住民支え合いマップ(以下、「マップ」)の作成率の出し方について説明してほしい。現状市と社協で協力してサポートすることになっているが、社協に一元化しておいた方が良いのではないか。(委員)

→マップの作成率については、諏訪市の中の構成組織(区)の中には区民の人数が少なくマップの作成が不要と判断した区もある。不要と判断した区を除いた組織が分母となり作成している。令和7年度については南町で新たに作成された。課題としては作成することだけでなく、内容の更新が必要となる。(事務局 福祉介護課長 小泉課長)

→社協に一元化することについては市と社協で協議して行きたい。(委員)

○災害時要援護者登録台帳の登録人数に対して個別避難計画数の登録人数が少ない訳は。(委員)

→個別避難計画というのは国が推進を呼びかけているもので、それぞれ1人に対して災害時に「誰が手を引いて避難所に連れていくか」という具体的なところまで作成するもの。一方で諏訪市が取り組んでいる災害時要援護者登録台帳では地域支援者(一緒に避難を呼びかける者)の選定をお願いしているが、自分自身の心配や一人で複数人の避難を支援することの困難もあり個別避難計画の数字が伸び悩んでいる。担当者や民生児童委員と相談していきたい。

(事務局 福祉介護課長 小泉課長)

○災害時要援護者登録台帳の登録人数に対し見守り協力員の人数がかなり少ない感触がある。今後どのような取組を想定しているか。(委員)

→見守り協力員は一人で複数人担っているケースがあるため人数が少ないという側面もある。

「65歳以上の一人暮らし」という設定も社会情勢に合わせて変えていく必要があると考える。民生児童委員の皆さんと相談しながら見直しを検討したい。(社協櫻井局長)

・アドバイザー総括

地域福祉を評価することは比較的難しい。計画は5カ年あるが担当者の異動等に関係なく一定の議論ができるような体制が用意されている。定量的評価、定性的評価の乖離等に対しても意見交換がされていて良かった。時間に限りがあるため「意見シート」を活用してほしい。

内容について「体制づくり」に関する数値目標である「市民満足度調査」がほとんど上昇していることに違和感を覚えた。公的福祉、障がい福祉、子育て、社会保障、地域福祉等評価が上昇している。市民の方々がどのような判断から評価をして結果に繋がったのか分析をする必要がある。

また委員より意見があったように、時代の変化によってコミュニティ自体の活力が低下し昔のような地域福祉ではうまくいかなくなっていることについて、諏訪市に限らず全国的に問題が深刻化している。また社会福祉法の改正によって、行政や社協の業務が増えて地域で繋がりをもって支え合っていく方法は不可逆的に低下していく事を国が説明している。地区社協、サロン、見守り協力隊等これまで地域を支えてきた方々も変化している。意見があったように、「65歳以上の高齢者」という表現は現状で85歳以上の人口が増え続ける統計が出ていることから範囲が広すぎるのかもしれない。85歳以上の人口が高止まりしていく状況で、今後は「地域福祉」や「地域の見守り」の維持方法を考えていく必要がある。住民が協力しやすい点として、「防災」や「子ども食堂」等の取組みは近年盛んに取り組まれており、子どもを絡めた取組をうまく活用してくと高齢化で行き詰っていく点を打開できるのではないかと感じた。

また諏訪市は地場産業が特色でもある地域でもあるため、企業経営等に従事されていた住民を区長や民生委員等福祉分野に巻き込めば、新しい考え方の発掘やリーダーシップを発揮していただける可能性があるため、重要であると考えます。

今回「体制づくり」や「基盤づくり」の中で、孤立・孤独、引きこもり、ヤングケアラーのような比較的少数派の福祉的問題点について国はさらに手を入れていく方針を示している。それに対し少しずつ準備が始まっていることで評価が向上している。孤立・孤独、引きこもり、ヤングケアラーに関する課題は非常に多く、また増え続けるのに対し投入できる人員が限られているなかで、どこに焦点をあて専門的人材を投入し幅広い人たちを巻き込むかがますます重要になる。

福祉サービスが多様化することで、市としてどこに注力、また絞るべきなのかを真剣に考えなくてはならない時代になっている。行政、社協は一步先の未来を見ながら、中期となる諏訪市地域福祉計画も今後の方針を検討していくべきである。

→達成度、評価、内容について協議会 承認済み

5 その他

(1) 包括的な支援ニーズに適切に対応できる体制の構築に向けて
(事務局 生活福祉係 藤森企画監より説明)

9 閉会(名取副会長)

終了時刻 15:45